

たき火を囲んで 薪割り大会

とき
12月7日(日)
10:30-15:00

ところ
彩工房 笠取工作所

彩工房では、「暮らしと住まい」をテーマに、日常を豊かにするさまざまな催しを行っています。12月は、恒例の薪割り大会を開催します。

暖かい炎を眺めていると、時間が経つのを忘れるものです。こぼしいたき火の匂い、澄んだ森の空気、寒い冬もやっぱり外は気持ちがいい。子どもは、枝葉や木くずで遊んだり、大人は木を伐って、割って、一日木こりになったような体験を試みませんか。

会場は、豊かな森の中に佇む工作所です。山から伐り出された木が職人たちにより乾燥・製材され、強く美しい木組みが生まれていく過程を見ることができ、木の匂いがいっぱいです。ぜひ覗いてみてください。

薪ストーブって、暖かいの？やっぱり手間がかかる？薪はどうやって集めてる？といった薪ストーブに関するよもやま話もしていただけます。

薪ストーブをお持ちの方も、たき火が好きな方も、木が好きな方も、ぜひお集まりください。



木を燃やす



火が燃えだすと、その場の空気がそれまでと違うものになる。そんな気がするの、生物の本能でしょうか。

子どもは火遊びが大好き。

でも、実は大人も火のそばをなかなか離れられないものです。べた木がだんだんと燃えていく様子は、目が離せません。体の中からじわじわ暖まってきて、とっても心地よい。

少し気まずい人との間にも火があると、なかなか居心地がよくならないから不思議です。

おじいさんおばあさんが子どもだったころ、森で木を拾って運んでくるのも、燃やしてお風呂を焚くのも、子どもの仕事だったとか。

もちろん火傷をする可能性は増すでしょう。

薪の用意も掃除もついて回ります。

それでも火がもたらしてくれる楽しさ、美味しさ、ほっとする感じ。そんな思い出は、もっと大きいものかもしれません。

木が燃えて残るものは、灰。灰は畑の栄養となります。

木を伐り出した後の森、そこには新たな木が芽吹きます。

便利な電気やガスが広まって、私たちも、子どもたちも、森に入らなくなりました。

遠い国から燃料を買ってくるよりも、近くの森の木を燃やして暖まることは、賢い選択なのかもしれません。



12月7日(日) 10:30-15:00

*雨天決行

会場

彩工房 笠取工作所

〒601-1393 京都府宇治市二尾膳前谷 9-1

- ・京滋バイパス笠取IC、南郷ICから共に5分
- ・各インターより滋賀県道・京都府道3号(宇治川ライン)を宇治方面へ、かやぶき民家と乗馬クラブ(カシオペアライディングパーク)の手前を右折すぐ

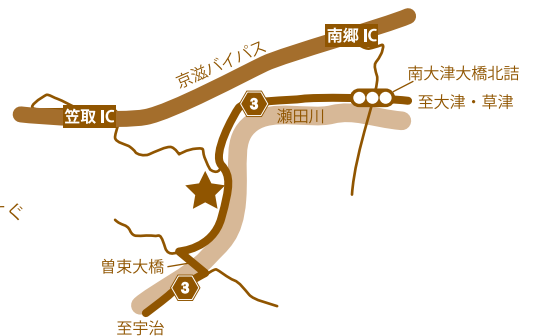
定員

30名

参加費

500円/名

- *乳幼児無料。
- *豚汁とご飯のお昼、おやつ代および保険代を含みます。
- *ご自分で割った薪は、お持ち帰りいただけます(一家族1,000円いただきます)。



お申込み・お問合わせ ▶▶▶

彩工房ホームページのお申込みフォームにて、参加される方全員のお名前とご連絡先をお伝えください。11月15日(土)より受付を開始します。



彩工房

<http://www.saikobo.co.jp> info@saikobo.co.jp

tel:075-632-9889

京都市山科区四ノ宮大將軍町 15

次回の暮らしと住まいのセミナー

1/25 家づくり教室を予定しています。